

# 渋谷区長賞に「あの初」！すべてのチームに担当者も

ついに大団円を迎えたプロジェクト。しかし、リスタートもこの日から始まる。



今後に向けてメンバーみんなで決意を新たに交流会

## 最終本戦「未来共創マーケット」 2017年12月9日（土）青山学院大学 青山キャンパス

6月にスタートした「渋谷民100人未来共創プロジェクト」が、12月9日ついに大団円を迎えました。最優秀賞の「渋谷区長賞」はチーム「あの日見た初台の景色を僕たちはまだ知らない」の「初台緑道を『パフォーマンスロード』へ！」が授賞。この他本選に出場したすべてのチームが協力企業賞などいずれかの賞を授賞する結果となったうえ、長谷部区長の鶴の一声で渋谷区役所の担当セクションも決められるというサプライズもありました。長谷部区長は終わりに際し、こう言っています。「今日の評価は別に問題じゃない。みなさんが考えたプロジェクトが、世の中にどう形となって出るのが、それが本当の評価になる。どうか覚悟をもって、これから汗をかいてほしい」——。そう、大団円ではありませんが、これは終わりではありません。むしろ、本当の始まりはこれから。渋谷民100人未来共創プロジェクトにどんな意味があったのかは、プロジェクトが終わった今日この日からの活動に懸かっています。

この日本選の場に臨んだのは以下の9チームです。

1. ALL SHIBUYA (文化・エンタメ)「ALL SHIBUYA」
2. 虹 (コミュニティ)「しぶや五輪・虹色ルート」

3. ホグワーツ渋谷分校 (コミュニティ)「Life Scramble」
4. 世代間交流仕掛け人 (共生)「次世代型間借りプロジェクト」
5. チーム祭 (共生)「五輪音頭フェスティバル」
6. あの日見た初台の景色を僕たちはまだ知らない (コミュニティ)「初台緑道を『パフォーマンスロード』へ！」
7. Rainbow Friday 事務局 (共生)「Rainbow Friday Campaign」
8. シブラバ (健康・スポーツ)「Trash Shooter Challenge」
9. Serotoning (コミュニティ)「しぶやキッチン」

どのチームも予選からの1カ月余りでさらにプレゼンテーションをブラッシュアップ。予選当時は会場に居合わせた関係者から「ちょっとアイデアが弱いんじゃないか」「練り込みが足りない」という声が聞かれましたが、その不足を補って有り余るほどのものになっています。コミュニティWSのチームは



この間最低 2 回は「壁打ち」と称するオフィス・アワーに臨んでおり、ソフトバンクの新規事業開発部署の関係者にこっそり叩かれ絞られ磨き上げてきました。どの WS のチームも大なり小なりこうした厳しい研鑽を経てこの場に立ったに違いありません。1 チームわずか 5 分のプレゼン、3 チームごとにまとめて質疑応答という進行でしたが、いずれも短い時間で効率よく発表し、厳しい質問にも的確に回答。プレゼン方法も手が込んでおり、小芝居を入れたり、TED ばりに熱く思いを語るチームなど、それぞれに特色のある発表となりました。

審査の結果、渋谷区長賞はじめすべてのチームになんらかの賞が授与されるという結果となり、先述の通り、すべてのチームに区の担当者が決められ、その場で発表されました。また、長谷部区長は「もちろん無理をする必要はない」とはしつつも、「半年間みなさんが取り組んできたことの評価は、これからのアウトプットで決まる」ともしています。「無理だったら無理と言ってきていい。でも僕は本気です。これだけのものを中途半端にしたくない」（長谷部区長）。

結果発表から交流会までの間に、長谷部区長、レガシー共創協議会の間野義之会長、アドバイザーを務めた中竹竜二氏が挨拶に立っていますが、そのすべてに共通していたのが「これがリスタートだ」ということ。

中竹氏は「これはクロージングの挨拶だが、同時に次に向けたオープニングの言葉」と言っています。「今日の結果はみな本気で取り組んだ結果だと思う。やってみて分かったと思うが、実は本気は結構簡単に広がるものだ。そしてまた、実は結構簡単に冷めてしまうものでもある。ここから本当の本気が問われる今、そこを肝に銘じてリスタートを切ってほしい」（中竹氏）

間野氏は取材に答えて、渋谷区だけでなくレガシー共創協



この半年メンバーをリードし、時には叱咤激励してくれたファシリテーターのみなさん

賞	プロジェクト名	チーム名	WS
渋谷区長賞	初台緑道を『パフォーマンスロード』へ!	あの日見た初台の景色を僕たちはまだ知らない	コミュニティ
渋谷民賞	Trash Shooter Challenge	シブラバ	健康・スポーツ
オーディエンス賞	しぶや五輪・虹色ルート	虹	コミュニティ
サッポロホールディングス賞	ALL SHIBUYA	ALL SHIBUYA	文化・エンタメ
セコム賞	Life Scramble	ホクワーツ渋谷分校	コミュニティ
DNP 賞	しぶや五輪・虹色ルート	虹	コミュニティ
東京不動産賞	ALL SHIBUYA	ALL SHIBUYA	文化・エンタメ
東京急行電鉄賞	Rainbow Friday Campaign	Rainbow Friday事務局	共生
東京ドームスポーツ賞	五輪音頭フェスティバル	チーム祭	共生
BEAMS 賞	次世代型間借りプロジェクト	世代間交流仕掛け人	共生
LIXIL 賞	次世代型間借りプロジェクト	世代間交流仕掛け人	共生
ルネサンス賞	しぶやキッチン	Serotoning	コミュニティ

審査結果（協力企業賞は発表順）



渋谷区町長賞を獲得したチーム「あの初」は「チャレンジショップ」「チャレンジプレイス」などのアクションで初台を活性化し、スクランブル交差点以外の渋谷の発信拠点を創出するプラン。渋谷区がまさに取り組む管轄、幅ヶ谷、初台の活性化、再開発プロジェクトと被った点も評価につながった

議会で受賞した全チームのプロジェクト実現に向けた体制を採っていきたくとしています。

「ひとつは、協力企業が実現のお手伝いをできるように相談会のような窓口を作るとことを考えている。もうひとつは第二弾をどうするか。若者が行政に積極的にコミットしていく場を繰り返し作り、成長させていきたい」（間野氏）

文化・エンタメのファシリテーター、鶴見有貴氏は「ここでようやくメンバーが本当にスタートラインに立てたのじゃないか」と見えています。鶴見氏は、ワークショップの活動をメンバーの自主性に任せようと、このプロジェクトのエンドポイントを、この本選ではなく「そのもっとうと先にある」と言い続けてきた人。

「長谷部区長は最後に『やるか、やらないか』を強力に突きつけたと思う。ここでやめるメンバーもいるだろう。やるメンバーもいるだろう。ここからが本当のスタートで、本当の勝負が始まる」（鶴見氏）

「過去は変えることができる」とも言われます。チームメンバーが今後も活動を続け、何かを形にすることができたとき、初めてこの半年の活動に意味があったと言えるでしょう。逆に何事も為すでもなく終わったとしたら、この半年はただの夢の泡沫に過ぎなかったということにもなりかねません。終わりに際し、改めてメンバーの皆さんのこれからの活躍に期待したいと思います。

### 「渋谷民 100 人未来共創プロジェクト」とは

三菱総合研究所 レガシー共創協議会と渋谷区が 2017 年 6 月に発足させたレガシー創出のプロジェクト。渋谷区に関わりのある 18～29 歳の若年層を一般公募、120 名のプロジェクトメンバーを選出し、半年かけて 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを契機に「世界を驚かす SHIBUYA」を生み出すことを目的にしている。「健康・スポーツ」「文化・エンタメ」「共生」「コミュニティ」の 4 つのグルー

プロジェクトの詳細は三菱総研の関連サイト (<http://platinum.mri.co.jp/seminar/project/shibuya-legacy-index>) へ

プに分かれてワークショップを行い、12 月にはコンテスト形式でアイデアを競う。一般的なビジネスコンテスト、アイデアソンと異なるのは、行政、企業が「実現」にこだわってサポートしている点。優れたアイデアは表彰し、渋谷区の来年度の施策に取り入れたり、サポート企業が事業として採用することも検討。総合アドバイザーは日本ラグビーフットボール協会コーチングディレクターの中竹竜二氏。